

## 2008年6月24日開催 第529回 番組審議会

### ■ 出席委員

荒巻裕委員長 櫻井美幸副委員長 上田理恵子委員 神谷徹委員  
岸本卓也委員 黒田勇委員 東野博昭委員

### ■ 毎日放送出席者

山本会長 河内社長 田中専務 上田専務 山西常務 松島常務  
三村制作局長 東編成局長 熊報道局長 木田コンプライアンス室長  
水野プロデューサー

## ◆テレビ番組「たむらけんじの学校に行こッ！イマドキのセイシュン」

5月31日(土) 16:00~17:00

第529回番組審議会は6月24日に開かれ、テレビ番組「たむらけんじの学校に行こッ！イマドキのセイシュン」を審議しました。

委員の主な意見は次の通り。

\*たむらけんじのキャラクターを生かして、高校生たちと普段の通りに接することができ、非常にいいものを引き出している。彼によるものが非常に大きい。高校を選ぶ際に、どの高校を志望したらいいかという、志望校を決める上でも参考にもなりそう。

\*こんな優れた人がいるとか、変わったところがあるというのではなく、むしろそこを避けて、普通の高校生を紹介するということで成功している。

\*学校ものの中では一番大人目線の番組。中高年にとってはいやしであり、「日本もまだまだ大丈夫だ」という感じ。期待される青少年像というものを描いている。

\*一人一人の高校生のひたむきな感じ。やたら真剣で、真剣がゆえに滑稽な感じもあり、それで観たあとすごく気持ちが温かくなる。観た瞬間、一時的だが、観た高校生

のことがすごく好きになっている。

\* こういう高校生の素顔をうまく司会者との掛け合いで引き出していくというのは、やはりテレビならでは。ただ場所が教室なので、今後もたむらけんじと高校生のやりとりが、品を失わないようにやっていけば、楽しい番組として続くのではないかな。

\* 高校生ならではの自然のボケと、たむらけんじの突込みが面白い掛け合いになっていて、非常によかったと思うが、あまりそれを求め過ぎないほうがいいとも感じた。

\* となり近所の明るい高校生を描き出そうと努力し、それがきちんと伝わってくる番組。その着想力を評価したい。

◆「放送倫理について」コンプライアンス室長が報告した。

◆ギャラクシー賞受賞などを広報部長が報告した。